

平成21年3月31日現在

研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：平成18年度～平成20年度  
 課題番号：18592393  
 研究課題名（和文） 大学生ピアカウンセラー養成のためのセーフターセックスネゴシエート  
 演劇教材の作成

研究課題名（英文） Development of vignettes of safer sex negotiations to role-play to  
 educate college students to be peer counselors.

研究代表者 大石 時子 (OISHI TOKIKO)  
 天使大学・大学院・助産研究科・教授  
 研究者番号：90331470

## 研究成果の概要：

ピアエジュケーションの中から中高大学生のセーフターセックスネゴシエートの実際の言葉を抽出し、これらの抽出された認識や行動のパターンと大学生への意識調査の結果等を基本に、大学生ピアカウンセラーを養成するための、8パターンのロールプレイ用演劇シナリオを完成した。

また大学生への意識調査からセーフターセックスネゴシエートに関する大学生ピアカウンセラー養成前後の教育効果を計る自己効力感の尺度を作成した。

## 交付額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,300,000	0	1,300,000
2007年度	700,000	210,000	910,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
総計	2,800,000	450,000	3,250,000

研究分野:医歯薬学

科研費の分科・細目:看護学・臨床看護学

キーワード:セーフターセックス、ネゴシエート、コンドーム、ピアエジュケーション、ジェンダー、  
 大学生、高校生、ピアカウンセラー

## 1. 研究開始当初の背景

本研究者は以前から、大学生ピアカウンセラーによる中学・高校生への性教育に関わり、その中で、中高校生に対する効果的なセイファーセックスネゴシエートプログラムの研究を行ってきた。しかし、中高校生を教育すべき大学生ピアカウンセラーそのものに、セイファーセックスネゴシエートの教育が必要なことが考察され、そのため教材が必要と思われた。

開始当時は研究者周辺地域の大学生ピアカウンセラーの養成はそれぞれの大学・グループなどで個別に行われており、セイファーセックスネゴシエートについての教育のされ方もまちまちであり、そのような教育がされていないカウンセラーも多く、共有できるような教材はなかった。

## 2. 研究の目的

そこで本研究では、大学生ピアカウンセラーにセイファーセックスネゴシエートを教育するための教材を、特に、ネゴシエーションという性格上、ロールプレイができるような演劇教材として開発することを目的とする。

## 3. 研究の方法

### (1)大学生のセイファーセックスネゴシエートに対する意識調査

大学生のセイファーセックスネゴシエートに対する実態と意識を全国の医療系以外の12大学で自己記入式質問紙で調査した。調査期間は2006年12月から2007年2月であった。調査内容はコンドーム使用の実態と使用要因で、中でもネゴシエートの実態とその自己効力感について質問した。米国の Brafford らによって大学生用に作成された、ネゴシエートの項目をよく網羅したスケール、Condom Use

Self-Efficacy Scale(以下 CUSES)を日本語に翻訳して自己効力感の質問項目とした。

### (2)教材の評価のための、セイファーセックスネゴシエートの自己効力感測定スケールの開発

自己効力感は学習によって高められ、行動変容に連がる概念と考えられるため、対象の意識の介入前後の変化を知り教材の評価をするために有用と考えられる。よって、本研究の演劇教材の評価にも使用できる、セイファーセックスネゴシエートの自己効力感スケールの作成も目的として(1)の調査を行った。

### (3)大学生ピアカウンセラーの養成勉強会

演劇教材作成の母体とするため、A市にある数校の大学の学部生、院生にピアカウンセラーになる呼びかけを行い、ピアカウンセラーの交流勉強会を行う中でピアカウンセラー養成を図った。

### (4)演劇教材を作成するための中高大学生のセイファーセックスネゴシエートのパターン抽出

(3)の勉強会(Apeer)に参加していたA大学の大学院生がピア活動として行った出前授業の中でセイファーセックスネゴシエートに関する部分を研究対象とすることとし、中高大学生のネゴシエートのパターン抽出を行った。

### (4)で抽出されたパターンと(1)の結果に基づき、演劇シナリオを作成

演劇シナリオを作成し、それらを、(3)のApeerで集まった学生たちにロールプレイしてもらったり、周囲の大学生の意見を聞いてもらったりし、大学生の現実や言葉使いに近いものにするよう修正を加え妥当性の確保に努めた。

## 4. 研究成果

(1)質問紙は1035部を回収、そのうち18歳

～23 歳までの大学生にしぼった有効回答は 914 部であった。男女共に、相手からのコンドーム使用提案があると、使用率は有意に上昇していた。しかし、男女別に比較すると女性は使用提案率が男性より有意に低かった。(p=0.027) 男性は女性に比べて相手から提案されても使用しなかった人が有意に多かった。(p=0.031) 今までに、コンドーム使用を提案して拒否されたことのある女性は、そのような経験のない女性に比してコンドーム使用率が有意に低かった。(P=0.015) 従って、女性はセイファーセックスネゴシエートをもっと積極的に、男性はそれを拒否しないように教育することが重要であることが示唆された。

(2) (1) の自記式質問紙の中で調査した CUSES は、日本語版では、文化的に不相当と考えられる項目が統計的に削除され、日本語版 CUSES (Japanese Version of Condom Use Self-Efficacy Scale 以下 JCUSES) は、6因子24項目で構成されたスケールとして妥当性、信頼性の高いスケールであることが確認できた。また、この JCUSES で計測された自己効力感を男女で比較すると女性のネゴシエートの自己効力感は男性より低く、女性にとっては事前に話し合いができるかの効力感がネゴシエートしたかどうかに関連していた。

(3) ピアエジュケーターの交流勉強会 Apeer を 2006 年度にたちあげた。2大学院3大学からピア活動を既に行っていた学生と、新たにピアエジュケーターになることを望む学生が集まり 2007 年度までに7回の交流勉強会を行った。しかし新しくピアカウンセラーになろうと継続的に参加した学生は少数で、新たにピア活動を行うまでには至らなかった。しかし、2008年度にも5回の Apeer の活動を行い、研究者が作成したシナリ

オを実際にロールプレイをしながら、大学生向けに妥当性のあるものにするための検討を行った。

(4) 中高大学生が実際、どのようにピアエジュケーションの中でセイファーセックスネゴシエートをしようとするかを、分析した結果、11の大カテゴリーに分類される行動や認識のパターンが抽出された。

11の大カテゴリー

- ① 自分の気持ち・考えを伝える
- ② 相手の意図を確認する
- ③ コンドームをつけるように働きかける
- ④ 抵抗する
- ⑤ 抵抗するように装う
- ⑥ あきらめる
- ⑦ SEX する
- ⑧ 自分を大切にしたい
- ⑨ 状況や相手との関係により検討する
- ⑩ SEX に対する気持ち
- ⑪ 男性側の欲求

(5) 以上のパターンと、(1) (2) の調査結果を参考に、大学生ピアカウンセラーを養成する演劇教材のシナリオを以下の8パターンとして作成した。

- ① 別れる覚悟ではっきり Version
- ② 妊娠の責任とれる？—つけないならしない version
- ③ 「嫌われたくない」、を克服しコンドーム用意 version
- ④ 相手の意図・関係性を質問する version
- ⑤ まだ早い—こわい version
- ⑥ 「一回ぐらい大丈夫」を拒否するため、関係性に訴える version
- ⑦ 相手の意図を質問する—大切にしてほしい version
- ⑧ 「覚悟してたはず」を跳ね返し、行動で拒否する version

ここに、1例として③のシナリオを示す。

まさや君(M) 大学生3年生

部活で知り合ったけい子さん(K)1年生

2人はラブラブです。いつものように晩ごはんをアパートで食べようとしていた2人

M「もう、おれたち付き合っただけ3ヶ月になるんだネ。けい子、俺のこと好き？」

K「大好きだよ」

M「俺も好きだよ。俺たちそろそろエッチしてもいいんじゃない？」

K「え〜、でも・・・」

M「もう3ヵ月も待ったんだよ、けい子のこと大事にしたかったからさ」

K「そうだよネ、大事に思ってくれてたんだよネ」

M「ネ、だから いいだろう？」

K「ウン、でも・・・ゴムある？」

M「一回ぐらい大丈夫だよ、初めてだと妊娠しないらしいよ」

K「そうだね、もっとお互い好きになれるかもしれないしね」

M「やさしくするからさ」

ラブラブのまさやくんとけいこさんは、こうしてゴムなしで、セックスしました。

友達アヤ(A)と

K「彼氏には言えないんだけど、妊娠したかと思ってすごく不安なんだ」

A「そうだよね〜、安全日なんてないから、一回でも妊娠する可能性はあるよね、」

K「でも、けいこ、まさや君のことすごく好きだから、嫌われたくなかったの、それにまさや君にも悪いし、」

A「う〜ん、わかるわかる、そういう気持ちがあると、一回ぐらい、ま、いっか、って思っちゃうよね」

K「この次、会ったらどうしよう」

A「けいこがゴム持って行けば」

K「え〜！そんなことしたら、よけい嫌われちゃうよ」

A「じゃ、二人で買いにいけば！？」

K「そんなこと言えるかな〜」

A「ちゃんと自分の気持ち話して、聞いてくれないような彼氏はダメだよ。一度ちゃんとけいこの気持ちを話してみたら！」

その後、

M「今日泊まっていけば・・・」

K「そうしようかなあ。でもエッチするんだったらゴムつけてほしいナ」

M「え、どうして・・・。初めての時はゴムしないで大丈夫だったヨネ」

K「あの時もネ、あとで妊娠したかと思って、不安で不安でしようがなかったんだよネ」

M「あっそうか〜、やっぱ一回でもやばいよね」

K「だから、妊娠したら責任とってくれるのかわからなかったし、あんな不安な思いはもうしたくないから、今日からはゴムつけてほしいの。長く付き合いたいからまさや君とは」

M「わかった！じゃ今から行ってくるよ」

K「一緒に行こうか？」

M「ホント？じゃ行こうか！！」

— 二人は手をつないで出て行く —

#### (6) 本研究の位置づけと今後の課題

現在まで、性教育のビデオは数多く作成されてきたが、セーフターセックスのネゴシエートに焦点をあてて作成された教材はほとんど見当たらなかった。本研究は性行為や避妊が男女の間でネゴシエートされれば、望まないセックスや妊娠を避けることができることを明らかにしたとともに、その方法について具体的にネゴシエートの教材として大学生に演劇を通して教

育できる点に意義があると考ええる。

現時点では本教材はシナリオとして作成されているが、実際に大学生の演劇又はロールプレイとして演じた DVD またはビデオとして完成させることが望ましいと考えられ、今後そのような形で完成させていくことが課題である。

また、開発した尺度は、妥当性、信頼性が十分検証されたコンドーム使用の自己効力感尺度としては今まで日本にはなかったものである。しかし、今回は演劇教材を使用するフィールドとしてのピア養成活動を組織するまではできなかったため、教育効果を測定するスケール作成したが、生かして評価することはできなかった。

実際のピア養成活動の中で、本演劇教材を使用すること及び、その効果を本尺度を用いて評価してみることが今後課題である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2 件)

##### ①思春期学

大学生用日本語版コンドーム使用自己効力感尺度の開発:内容的妥当性と信頼性の検討  
大石時子、山村礎、柳原真知子、恵美須文枝  
Vol.25No.4 2007 年 p411-422 査読あり

##### ②思春期学

大学生用日本語版コンドーム自己効力感尺度の開発:妥当性の検討  
大石時子、山村礎、柳原真知子、恵美須文枝  
Vol.25No.4 2007 年 p423-435 査読あり

[学会発表](計 1 件)

##### ①Tokiko Oishi

Current status of condom use among Japanese college students from a gender-specific

perspective: Empowering women to negotiate condom use.

International Confederation of Midwives,  
28<sup>th</sup> Triennial Congress  
June, 3<sup>rd</sup>, 2008 Glasgow, Scotland, UK

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

大石 時子 (OISHI TOKIKO)  
天使大学・大学院・助産研究科・教授  
研究者番号:90331470

##### (2) 研究分担者

なし

##### (3) 連携研究者

柳原真知子 (YANAGIHARA MACHIKO)  
天使大学・大学院・助産研究科・教授  
研究者番号:70289994

##### (4) 研究協力者

恵美須文枝 (EMISU FIMIE)  
首都大学東京・健康福祉学部看護学科・教授  
研究者番号:40185145

山村 礎 (YAMAMURA MOTOE)

首都大学東京・健康福祉学部看護学科・准教授

研究者番号:00260323